

避難後の医療や支援は

災害時の実効性を高める



よしおまさき 議員 吉尾昌樹

締結し、医薬品等の医療器材の備蓄、供給および人材派遣等の整備をするよう定めている。

今後、福祉部局を中心として関係機関と連携した医療救護に関する実働机上訓練等を実施し、災害時の実効性を高めていきたいと考えている。

**問** 南海トラフ地震や津波、台風などによる家の倒壊などで、住む家がなくなった人達は、長期の避難生活になる。その時の医療面や介護などの支援は想定できているか。

**答** 徳廣情報防災課長 大規模災害発生時における医療については、黒潮町災害時医療救護計画を作成している。その中で、幡多医師会、高岡郡医師会、拳ノ川診療所との連携、各団体と協定を

場合、高台の公有地が少なく、応急仮設住宅用地については、必要面積が確保出来ないのが現状だ。農地などの民地利用、山間地の空き家の活用、さまざまな可能性について検討を進めなければならない。

安全な住宅地の造成については、具体的な計画はない。ただ、新たな宅地造成など、選択肢も排除せずに、高規格道路の延伸等、環境の変化や総合的な町づくりのなかで検討が必要と考えている。

**問** 長期避難となると、仮設住宅もたくさん設置しないといけないと思うが、土地などは確保できているか。

**答** 徳廣情報防災課長 仮設住宅等の災害発生時に必要となる機能の配置は、公有地を中心として配置している。本町の町として、高台への住宅や団地の用地を造る計画はあるか。



役場西側の町営団地建設予定地

福祉問題

免許返納者への町の支援は

関係部署と連携し取り組む

**答** 青木地域住民課長 現時点での新しい支援やサービスはない。返納後のサポートについては、土佐くろしお鉄道や高知西南交通等が運賃の割引を行う特典を設けている。現時点で8事業所が、協力店として参加してくれている。

免許証を返納した方が、移動手段が狭くなったことで外部との接触が少なくなり、引きこもりや認知症の程度が悪化するなどが問題視されている。そのため、移動手段を確保すると共に、福祉面や健康面のフォローも大変重要になってきている。役場内の福祉や健康、公共交通等の関係部署とも、横の連携をとりながら、出来ることから取り組んでいきたい。

**問** 高齢者の運転免許証返納後の不便さは大きい。四万十市では、介護タクシーや福祉タクシーなどがあり、通院や買い物にもよく利用されている。あったかふれあいセンターなどでサポートもしてくれているが、まだまだ、不自由している人が多くいると思う。町の支援として今行っている支援以外に何か考えていることはあるか。